

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24720236

研究課題名(和文) 日本語教師のためのオンライン ICT 研修構築に向けた協働的アクション・リサーチ

研究課題名(英文) Collaborative Action Research to construct the online ICT training course for Japanese Language Teachers

研究代表者

山田 智久 (YAMADA, Tomohisa)

北海道大学・留学生センター・准教授

研究者番号：90549148

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000 円、(間接経費) 540,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は、研究代表者がメンター、研究協力者がメンティーとなり、日本語授業における ICT 活用をテーマとし、協働的アクション・リサーチをオンライン上で実施し、日本語教師にとって最適なオンライン ICT 研修とはどのようなものかを検討した。

2年間の研究期間中に得られた成果は、1) ICTの技術的な進歩が早過ぎるため、ICTのスキル習得に主眼を置くと授業の質がおろそかになってしまうこと、2) オンライン上でのやり取りでは他の教師の授業の雰囲気が把握できず、助言が抽象的になってしまうことの2点であった。このことから、研修でICTを扱う際にはオンラインとオフラインの共存が望ましいということが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research investigated what types of ICT training course were useful for Japanese language teachers through the collaborative action research among a mentor and four mentee.

The main results are as followed; 1) Focusing on ICT skill training too much leads to a diminished of quality of teaching as the technology of ICT makes advances dramatically; 2) Advice from other teaches can be an abstract because teachers cannot grasp the atmosphere of other teachers' class through the online communication. Based upon these results, it advised that ICT training course should be designed from both aspects; online and off-line (real communication), for example, when learning ICT skills teachers can use online resources but when sharing practice of classroom teachers can use off-line communication.

研究分野：ICTリテラシー

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：ICTリテラシー 研修デザイン

1. 研究開始当初の背景

言語教育における ICT 活用は、新興機器の流行も後押しし、隆盛を極めているが、日本語教育の分野では、それほどの充実を見るには至っていない。学習者が様々な ICT 機器を駆使し学習を多様化して進めているのに対し、教師がその状況から取り残されている現状は、早急に改善する必要があると考え、本研究を実施した。

研究開始当初、日本語教育分野における ICT 普及の妨げとなっているものには、次の3点に集約できた。

- A) 非常に難解なものだと受け止められがちなこと
- B) 機器の整備に費用がかかること
- C) ICT を使った具体的な授業イメージが掴めないこと

2. 研究の目的

本研究は、日本語教師にとっての ICT 活用の敷居を下げることを目的とする。そのために、「日本語教師の ICT 活用に関する現状分析と検討」に主軸を置き、研究を進めた。このことにより、日本語教師にとっての ICT リテラシーの向上および新たな研修デザインの模索を検討した。

3. 研究の方法

本研究では、研究目的を達成するために、研究協力者4名(現職の日本語教師で、ICT スキルを取り入れた授業を試みたいもの)と研究代表者が、メーリングリスト(以下、ML)上で協働的 AR を実施した。

この過程で研究協力者は、提示された課題を解決する形で ICT スキルを学び、それを授業実践へと繋げ、詳細な出来事を ML 上で報告する。申請者は、研究協力者がどのような ICT スキルを向上させたいのか、また、どのような支援を必要としているのかについて詳しく記述して

いく。具体的な流れは、以下のとおりである。

まずは、実際に自分の授業で ICT を活用している教師への授業観察、インタビューを行い、ML 上で提示する課題を選出する。研究代表者が今現在行っているワークショップでは、ICT 機器の使用、教材作成での ICT 活用、授業内での ICT 活用、情報管理での ICT 活用の4つの分野からの質問を良く受けるが、果たしてこれらが、本研究の研究協力者の教育現場にも当てはまるのかも研究協力者への聞き取り調査から検証した。

4. 研究成果

2年間の研究期間中に実施されたML上でのやり取りやワークショップでの聞き取り調査から得られた最大の成果は、日本語授業に必要なICTスキルをオンライン上だけで習得することは、効率が良くないということである。その理由として、1) ICTの技術的な進歩が早過ぎて、技術習得を追うと、授業の質がおろそかになるということ、2) オンライン上でのやり取りでは、他の教師の授業の雰囲気把握できずに、アドバイスが抽象的なものになってしまうということの2点が挙げられる。そのため、オンラインを活用して日本語教師のICTリテラシーを向上させるためには、オンライン上にいつでも参照できるリファレンスを用意し、そのリファレンスをICT機器類の操作マニュアルと位置づけ、その上で、教師間の授業での活用を議論し合うという形が望ましいと言える。さらに、オフラインでのミーティングやスクーリングも行うことで、オンラインでのやり取りが活発になるという結果も得られた。

また、多くの日本語教師にとって必要なICTスキルは必ずしもオンライン上にあるのが望ましいわけではないこともわ

かった。特にインフラ整備が整っていない国・地域で働く日本語教師にとっては、情報が一冊の紙媒体にまとまっている方が活用しやすいということも現職日本語教師へのヒアリング調査でわかった。

本研究が持つ最大の意義は、日本語教師が必要としているICTリテラシーの習得にはどのような形態が最適かについて実験がなされたことである。現在でも、ICTリテラシーの習得は個人の教師に委ねられたままである。今後、より体系だったICTリテラシー研修の出現が望まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 8 件)

山田智久(2014)「デジタル活用で授業をスマートに」別府大学・明日香日本語学校主催、アルク・凡人社共催、日本語教師塾 in 大分、別府大学(別府)、2014年3月9日

山田智久(2014)「ICTを活用した授業を体験してみよう」日本学生支援機構東京日本語センター教員研修会、日本学生支援機構東京日本語センター(東京)、2014年3月1日

山田智久(2014)「日本語教育における効果的なICT活用」平成25年度日本語教育機関と高等教育機関留学生教育担当者との研究評議会 基調講演、日本学生支援機構東京日本語センター(東京)、2014年3月1日

山田智久(2013)「デジタルで授業の負担を減らそう」アルク・凡人社共催 日本語教師塾 vol.5、新宿ヒートウェーブ(東京)2013年8月24日

山田智久(2013)「教室で成長する英語教師—リフレクティブな授業改善の手法の可能性と課題—」第39回全国英語教育学会北海道研究大会授業研究フォーラム B、北星大学(札幌)、2013年8月10日

山田智久(2013)「ICTを活用した日本語授業実践」北海道大学日本語教授法ワークショップ、北海道大学(札幌)2013年8月2日

山田智久(2012)「デジタル教材を使った日本語教育の実践」2012 Castel/J 日本語教育とコンピューター 国際会議、名古屋外国語大学(名古屋)、2012年8月21日

山田智久(2012)「デジタル教材を使った日本語教育の可能性」日本語教育国際研究大会、名古屋大学(名古屋)、2012年8月18日

〔図書〕(計 1 件)

山田智久、くろしお出版、日本語教師のための TIPS77 ICT の活用、2012、304

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者

山田 智久 (YAMADA, Tomohisa)
北海道大学留学生センター・准教授
研究者番号：90549148

(2)研究分担者
該当なし()

研究者番号：

(3)連携研究者
該当なし()

研究者番号：